



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局

2009年度定時総会開催のご案内

2009年度の定時総会を下記のとおり開催します。会員の皆様、お誘い合わせの上、ご出席をお願いします。とくに、新入会員のご参加をお待ちしています。

また総会終了後、簡単な懇親会を同じ会場で予定しています。

—— 記 ——

日 時：2009年5月31日（日）14：30～16：00

場 所：県民サポートセンター7階／711号室

横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2（横浜駅西口）

TEL 045-312-1121

議 事：1. 2008年度事業報告

2. 2008年度一般会計決算報告と監査報告

3. 2009年度事業計画案

4. 2009年度一般会計収支予算案

5. その他

協会創立20周年記念企画について

AIYES通信第52号で報告しました会員からの提案に沿って、理事会で担当理事を決め、それぞれの提案企画につき検討を始めました。今後も進行状況に合わせ、逐次報告をさせていただきます。

- ①記念パーティーと全国スペイン協会会議開催：開催時期の検討と会場探しを始めています。横浜の景観、交通の便、サービス、セキュリティの要件を考慮して決定します。
- ②記念音楽会：スペイン音楽の分野で、著名なギタリスト・ピアニストのコンサートの開催を目指し接触を始めました。
- ③記念講演会：スペインに関する書籍の著者・大学教授・関連学会等とコンタクトを取り、何らかの形で実施できるよう計画しています。
- ④会員作品展：スペインをテーマとした絵画・写真・クラフト・押し花等の作品展開催を予定し、会場候補を打診中です。協会の活動紹介コーナーや、スペインからの記念品展示コーナーも併せて展示の案も検討しています。
- ⑤横浜フラメンコ大会：未定
- ⑥AIYES通信記念号の発行：記念企画催しの写真や記事を掲載し、2011年初春発行の予定です。
- ⑦スペイン語教室：協会で運営しているスペイン語教室を核としたアイデアを募集中です。

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

●2009年5月のスペイン・サロン

「スペイン王室500年 ― その光と陰」

5月のスペイン・サロンは神奈川県立外語短期大学教授で史学博士の君塚直隆氏に「スペイン王室500年―その光と陰」についてお話していただく予定です。スペイン王室に興味のある方はぜひお越しください。

日 時：5月16日（土）13：30～15：30

場 所：横浜市市民活動支援センター／4階（JR桜木町駅下車 徒歩7分）

講 師：神奈川県立外語短期大学教授 君塚直隆氏

会 費：会員 1,000円 一般 1,200円

●今後の開催予定（詳細が決まりましたら、「AIYES通信」、ホームページなどでお知らせします）

- ・2009年 7月 5日（日）13:30～15:30 県民サポートセンター7階／711号室（内容未定）
- ・2009年 9月 5日（土）13:30～15:30（予定）（場所・内容未定）
- ・2009年11月 7日（土）13:00～17:00（予定）「パエージャを作って食べる会」
横浜市技能文化会館（JR関内駅下車 徒歩5分）
- ・2010年 1月16日（土）13:30～16:00（予定）波止場会館／イベントホール「親睦パーティー」

歴史と文化を知るスペイン・サロン

●12月のスペイン・サロン

「スペイン料理を作って食べる会」

講 師：山田り子会員

日 時：2008年12月13日（土）13:00～17:00

会 場：横浜市技能文化会館6階／料理研修室

今年で第2回目の「スペイン料理を作って食べる会」です。参加者はスペイン人3人を含め21人の盛況でした。

メニューはおなじみの「パエージャ」、ジャガイモ料理の「パタタス・ア・ロ・ポブレ」、それに魚介類のサラダ「サルピコン・デ・マリスコス」でした。レシピは、山田講師がスペイン留学中にホームステイ先で覚えた本格的なものを教えていただきました。

「パエージャ」は3つのグループに分かれ、レシピに自分達の工夫も加えて調理を進めました。海老をはじめ沢山の魚介類の入った彩りも鮮やかなパエージャができました。

他の料理もできあがったところで隣の部屋で昼食

会です。松本益代さん自家製の果実酒（カリンとコーヒー）で乾杯をして、パーティーが始まりました。ワインやビールを飲みながら自分達で作った料理を楽しみました。料理は見栄えだけでなく、味も上々でした。飲んで食べるほどに話が弾み、スペイン語と日本語、それに英語も飛び交って、あっという間に予定の16時半になりました。全員で手際よく片づけをして17時に閉会となりました。来年もまた、この楽しい会に是非参加したいと思っています。（問屋正勝）



▲参加者が作った料理



▲講師を囲んで

●2月のスペイン・サロン

「新年親睦パーティー」

日 時：2009年2月14日（土）13:30～16:00

会 場：波止場会館5階／多目的ホール

春を通り越して初夏の陽気となったこの日、大さん橋たもとの波止場会館で横浜スペイン協会新年親睦パーティーが開催され、スペイン語教室マグノリアは、クラスで勉強したスペイン語の歌を披露しました。

毎月1曲ずつスペイン語の歌を覚えるマグノリアのクラス。メロディーを聞けば「この曲知ってるわ!」と思う有名な曲ばかりなのですが、歌詞やその意味までは理解していませんでした。講師の栗山先生の解説で「そういう内容だったのかあ〜」と驚くこともしばしば。毎回新しい発見があり、何よりスペイン語の歌のレパートリーが増えていくのがうれしいです。



▲皆さんからの差し入れとケータリングを利用し、立食パーティーを行いました

昨年につき二度目の発表の場となった今回は、クラスのメンバーによるキーボードの伴奏にギターが加わったこと、また、神奈川大学ラテン音楽愛好会から5名の学生が参加くださったことで、たくさんの楽器と仲間と一緒に歌うことになりました。プログラムは、Bésame Mucho、La Paloma、Cielito Lindo、Fonseca、Clavelitosの5曲。本番では伴奏とうまく合わなかったところもありドキドキしたのですが、会場の皆さんがロザさんだり歌に合わせて体を動かしたりされているのを見て、「私たちの歌が通じてよかった!」とホッとしたのが正直な気持ちです。

出番が無事終わり、立食パーティーではおいしいワインとお料理をたくさんいただきました。このときにもスペイン語の歌がよいきっかけになり、スペイン人や普段お会いしない方々ともいろいろお話しすることができました。

会場の波止場会館5階のスペースからは、きらきら光る海、そしてみなとみらいやベイブリッジなどの横浜ベイエリアの絶景が一望でき、さらに、ラテン音楽愛好会のライブ演奏に乗ってダンスをしたりと、とてもすてきな土曜の午後のひとときになりました。次の機会にはまた新しい歌をご紹介できるように、これからもがんばりたいと思います。

(マグノリア教室 関敬子)



▲マグノリア教室の皆さんと参加者でなじみのある曲を歌いました

特別寄稿

イスパニア・ロマネスク美術への思い

イスパニア・ロマネスク研究家 勝峰 昭

4月のスペイン・サロンでは、勝峰昭先生に「イスパニア・ロマネスク美術を語る ― 特に彫刻と絵画について ―」をご講演いただきました。コメントをいただきましたのでご紹介いたします。

はじめてサント・ドミンゴ・デ・シロス修道院に行った2000年から、天啓を受けたかのように、イスパニア・ロマネスク美術の遺産を数多く訪ねました。日本にはこの美術に関する本格的な著作はほとんどなく、原書を何冊も読みました。美術用語、とくに建築・彫刻・絵画など、また形而上学的なロマネスク美術用語・神学・哲学・美学・歴史などが混在する記述を、読み解くことは骨の折れる作業でした。その副産物ともいえる筆者編集の「イスパニア語 ロマネスク美術関連用語集（西語対訳）」約2000語を巻末に収録しました。

ロマネスク美術は11～12世紀のヨーロッパを一色に染め上げたキリスト教美術ですが、イスパニアはイスラム美術の影響を受け独特の光彩をはなりました。そこには通常の形の美しさはなく、「仮象の世界」が展開します。それだけに奥深く、われわれの心に訴えかける「本物の美術」なのです。それが近年再評価されている理由でしょう。

300点にもなる写真・図版はオールカラーで臨場感を持たせ、また聖堂名にはすべて西語併記とし、実際これから訪ね、研究される方の一助になるようにしました。

本書の出版にあたり、スペイン文化省のバルタサル・グラシアン基金より助成をいただきました。また、日本図書館協会の選定図書となり、多数の公共および大学図書館でも購入されています。

本書を通じて、イスパニア・ロマネスク美術に興味をもつ人々がふえることを期待しています。

『イスパニア・ロマネスク美術』

勝峰 昭著（光陽出版社、2008年）6,300円（税込）

『勝峰 昭のイスパニア・ロマネスク美術』

案内サイトURL http://geocities.yahoo.co.jp/gl/elromanico_es



▲表紙は、サント・ドミンゴ・デ・シロス修道院の「エマウスへの道」のレリーフ

会員投稿

アルベルゲ宿泊体験記

第一章 オルニージョス (Hornillos)

久保田 誠志

2008年4月22日から5月8日までピレネー山脈のロンゼンバジェスからサンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼の道をメインテーマに観光旅行してきました。その中で、実際に巡礼の道を3日間65キロ歩き、アルベルゲ（巡礼者向けの宿）に泊まった体験の一部をご紹介します。

ようやく今夜の宿泊地オルニージョスの集落が遥か遠くに見えてきた。ブルゴスを朝7時に発ち、タルダホス（Tardajos）、カルサダス（Calzadas）を通りカスティージャの大地・ブルゴス平原を歩いて、間もなく午後5時だ。初日から24キロの道のりは9キロのリュックも肩に辛い。荷を降ろし、靴を脱ぎ、「早く休みたい！」「温かいシャワーと冷たいビール！」と自然に足が速まる。

長い坂を下り、農道を2キロほど歩くと村の入口の十字路に到着する。そこには村の案内板があった。村の歴史と見どころを紹介してある。この十字路が、この村と都会との唯一の接点である。村はカミーノ（巡礼路）線上にポツンと取り残され、中世そのままの佇まいをしていた。村は巡礼者しか通らないし、その先もまたカミーノである。ガイドブックによると77人ほどの村だ。集落は石畳の緩やかな上り坂、カジェ・レアル（Calle Real）の両側に連なって建っている。レンガ色の古い家並みは空き家が多く、人の気配は全くない。無人の家だけだ。

50メートル程で一軒の店があり、私たちを追い越したグループが店前でビール休憩。彼らもようやく着いたという感じである。更に50メートル程進むと巡礼者の診療所（Hospital de Sancti Spiritus）の看板があった。午後6時からの診療と書いてある。更に50メートルほどでアルベルゲの案内がある。右手の奥まったと



▲広大なブルゴス平原。ようやく集落が見えてきた

ころにゴシック様式の教会があり、その真ん前の教会広場の一角に、レンガ造りの公営のアルベルゲがあった。傾斜地にあり正面からは2階建に見えるが、巡礼者の入口は裏手にあり2階が入口である。

5時半到着。入口に「シエスタのため6時に戻る」と貼り紙がある。当然、管理人はいない。遅れをとったな、と悔やむ。中には既に20人程の巡礼者達があり、1、2階のベッドはほぼ埋まっていた。みんなベッドの上で休憩していたり、荷を解いていたりにしている。日本人はおろか東洋人の顔つきは一人もいなかった。

1階のキッチン兼事務所と思しきところに先客が一組いるので私もそこで待つことにした。三々五々、巡礼者が到着する。中には、手際よく空いているベッドを探して占拠していく要領のいいものいる。オイ、オイ、



▲公営アルベルゲの入り口

待て、待て！ 私たちが先客だぞ……。でも声が出ない。私たちはどうなるの？ ベッドがなくなったら次のアルベルゲまでは4キロだ。早く確保しなくてはと焦る。

6時半頃、力仕事の似合う40歳代の管理人が戻り受付が始まる。カードに名前を書き、ひとり5ユーロを払う。遅く着く巡礼者のために一部屋空けてあったのだ。定員35人だそうだ。

焦ることはなかった。背の低い妻と私には、2段ベッドの下側をふたりが隣り合うように割り振ってくれた。クレデンシアル（巡礼者手帳）にスタンプをもらって、ベッドのある2階に行こうとしたとき「チトマテ！」。エー！ なに？ 日本語？ 振り返ると50代の明らかにスペインのご婦人。マド

リードに住むマリアさんという方で、昔、鎌倉に住んでいたことがあるそうだ。マリアさんは私の左隣のベッドである。

荷をほどき、早速シャワー。トイレとシャワーは2つのベッドルームの間にあり、男女区別なく空いているところを使う。シャワー室は簾の子も脱衣籠もない。タオルと着替えを濡れないようにビニール袋に入れ、脱いだ衣類を別の袋に入れ壁のフックに掛ける。シャワーは水より少し温かい程度。湯気の出るシャワーなどは望外であった。

ベッドに戻ると妻が半ベソで愚痴る。シャワーのノズルが高くて150センチの妻には届かなかったとか、シャワー室の床が水浸しで着替えが濡れてしまうなどなど。結局、妻はシャワーを使えなかった。マリアさんはシャワー室からタオルを巻いただけ、素足で戻ってきた。他の女性も堂々とタオルを巻いただけで闊歩している。しかしシャワーの温度にはマリアさんも頭にきて「昔はタダで泊まれたのに今は金を取る。金を取るのに水みたいなシャワーとはとんでもない」と、管理人に文句を言いに行った。管理人は、みんなが一斉に使うから温度が上がらないと言ったそうだが、「燃料費の節約のため絞っているに違いない」とマリアさん。スペインでも昨今の物価の値上がりは生活を直撃しているようだ。

妻は、「アルベルゲに泊まるのはもうこりごり。明日は普通の旅行者に戻りたい」と言い始めた。これから先、まだ12日間一緒に旅行するのだから、無理せず一泊だけの体験でいいかと思ひ、近くの町に行く方法を管理人に聞いた。

「町に行くには来た道を24キロ歩いてブルゴスに戻るか、村の入口の十字路を左に8キロ程行くとバスの通っている幹線道路N-120に出るから、そこで来たバスを停めて乗り込めばブルゴスに戻れるよ。でもバスが何時かは分らないけど」と困惑気味に言う。

そんなに苦労してまでブルゴスに戻る気はしないと云ったら、「それならカミーノをそのまま進み、カストロヘリス（Castrojeriz）まで行けばフロミスタ（Frómista）行きのバスがあるはずだ。フロミスタからはバスでも電車でもパレンシア（Palencia）に行ける」。妻は「そんな」と絶句したが結局、「ここはスペイン」であること



▲オルネーヨスの公営アルベルゲ。2段ベッドがずらりと並ぶ

に納得し、また20キロ歩いてカストロヘリスまで行くことにした。

そうと決まればあとは夕食である。途中にあった店に行きワインとつまみ、食料を調達し教会の敷地でフランス国籍のスペイン人の4人で酒盛りを始める。マリアさんが持参してきたハムを皆で食べた。とてもおいしかった。

教会はアルベルグより階段を数段上った所にあり、敷地にはベンチが数個置いてあり、そこは眺めもよく他にも三組ほど陣取って酒盛りしている。教会の守護聖人に怒られそうだ。ちなみに教会は16世紀に造られたサン・ロマン (San Román) 教区の教会だそうだ。

スペインの日暮れは遅く、酒盛りは10時頃まで続いた。照明は教会の入口にあるオレンジ色の街灯がひとつ。次第にカスティージャの大地が夕焼けから紫色へ、そしてゆっくりと暗くなり、あとは満天の星空であった。

翌朝、6時起床。昨夜はよく眠れたのだろう。目が覚めたら「もう朝？」なのだから。両隣のマリアさん、妻も起きた。勿論、まだ暗い。身支度して1階食堂で昨夜の4人で朝食をすます。

7時出発。足取りは昨日より軽い。マリアさんのリュックには半乾きの真っ赤な下着がぶら下がっていた。

(次回、カストロヘリスの章へ続く)

メールアドレス変更のお知らせ

昨年11月の協会のホームページのリニューアルにあわせ、各担当に新しいメールアドレスが割り振られましたので、お知らせいたします。

- ◇事務局 (一般問い合わせ) aiyes_info@yokohama-spain.jp
- ◇スペイン語教室 aiyes_language@yokohama-spain.jp
- ◇スペイン・サロン aiyes_salon@yokohama-spain.jp
- ◇AIYES通信投稿 aiyes_press@yokohama-spain.jp
- ◇web掲載投稿、リンク申し込み aiyes_web@yokohama-spain.jp
- ◇アドレス・住所変更、入退会 aiyes_info@yokohama-spain.jp
- ◇横浜スペイン協会ホームページURL
<http://www.yokohama-spain.jp> (2008年11月オープン)



▲ホームページとブログには、携帯電話からもアクセスいただけます

▶▶▶ スペイン語教室のご案内 ◀◀◀

2009年度の協会主催のスペイン語講座は下記の通りです。授業は90分です。

横浜駅西口教室 (県民サポートセンター7階 神奈川県鶴屋町2-24-2)

コース名	内容	開講日	講師名
「アマポーラ」(入門)	初歩の文法、基礎会話等	月曜日10:30~	山田るり子講師
「カメラリア」(初級)	文法、講読、会話	月曜日13:00~	ベアトリス講師
「ヒラソル」(中級)	文法、講読、会話	水曜日10:30~	ベアトリス講師
「ビオレタ」(中級)	文法(接続法)、講読	水曜日10:30~	ラケル講師
「ロサ」(入門)	基礎文法、会話	水曜日13:15~	ラケル講師
「クラベル」(初級)	文法、講読、会話	水曜日13:15~	ベアトリス講師

*各教室とも原則月3回開催。定員は15名。空席のある場合は随時入会可能です。

*受講料: 入門教室 1,500円/回

初・中級教室 1,000円/回 (但し、10名以下の場合は1,500円/回)

半期分前納（前期15回、後期18回）

協会会員以外は各期2,000円の事務手数料がかかります。

*スペイン人講師は日本語も堪能ですが、教室ではスペイン語が中心です。

☞お問合せ・お申し込み：横浜駅西口教室担当 久保田誠志

e-mail aiyes_language@yokohama-spain.jp

海岸通教室（波止場会館 大棧橋入り口手前左側 中区海岸通1-1）

コース名	内容	開講日	講師名
「マグノリア」（中級）	スペイン語の歌を覚える	第2土曜10：30～	栗山由美子講師
「アサレア」（上級）	文学講読、スペイン語での講義	第3土曜10：30～	ベラスコ講師
「新聞・雑誌を読む会」（上級）		第4土曜10：15～	栗山由美子講師

*各教室とも定員は15名。但し「アサレア」は定員10名

*受講料：マグノリア教室 1,000円/回

アサレア教室 1,500円/回

新聞・雑誌を読む会 2,000円/回

半期分前納

協会会員以外は半期ごとに事務手数料がかかります。

「マグノリア教室」「アサレア教室」は1,000円、「新聞・雑誌を読む会」は2,000円

*12月のみ、年末の休暇調整のため一週ずつ繰り上がります。

☞お問合せ・お申し込み：海岸通教室担当 中村瑛子

e-mail aiyes_language@yokohama-spain.jp

スペイン語教室紹介 カメリア (Camelia)

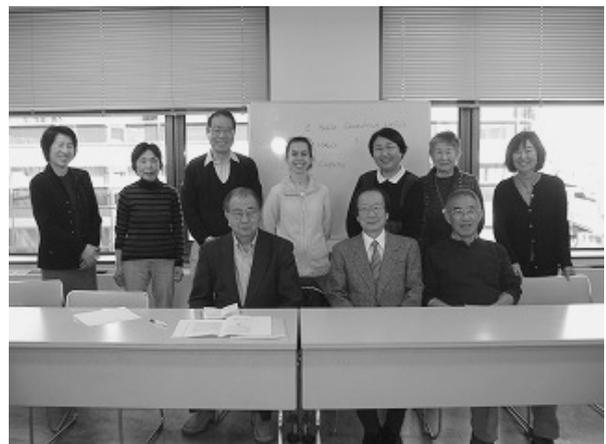
カメリア教室 富山 英昌

月曜日午後1時からの初級コースのクラスです。昼食後の時間帯で「眠気が出て授業に集中できるかしら？」という心配は無用です。ランチのあとのおしゃべりが延長したような雰囲気、適度な冗談と笑いが絶えないクラスです。

先生は、若さ溢れるバジャドリッド出身のスペイン女性で、ボディアクションを交え、いつも大きな声で、皆が分かるまで何度でも繰り返して説明してくれます。授業は日常の基本会話をベースに短編の物語や文法を織り込んだ、バランスのよく取れた内容です。

教室は横浜駅西口の直ぐ近くで立地条件にも恵まれ、授業のあとはクラスメートとお茶したり、ショッピング

したりで楽しい授業の余韻を楽しんでおります。スペイン人による本場のスペイン語会話を体験し、習ってみたいと思う方は是非覗いてみてください。一同お待ちしております。（ホームページ<http://www.yokohama-spain.jp> よりお問い合わせください）



▲ベアトリス先生とカメリアクラスの皆さん

一 賛助会員各社の会員サービス内容一

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用の割引
日西商事（うさぎのいる島）	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

//////////////////// 新入会員紹介 //////////////////////

佐藤 順子 (Junko Satou)

横浜市 2009年3月1日入会

外国にやっと目覚めてきました。とくにスペインという国に興味があるので、入会させていただきました。

江藤 幸寛 (Yukihiro Eto)

横浜市 2009年3月15日入会

昨年、当協会ですペイン語の勉強をはじめ、スペインへの興味が深まりました。

これから、スペインをはじめ、中南米のスペイン語圏の人々とコミュニケーションができ、交流が深められるようになりたいと思っています。

二川 昭雄 (Akio Futakawa)

横浜市 2009年4月1日入会

スペイン語とスペイン・ラテン文化の持つ「情熱」「親しさ」が大変魅力です。

当面まずはスペイン語を学びたいと思っています。

***** 事務局からのお知らせ *****

◆2009年度会費納入のお願い

本会報に同封してあります「振込用紙」をご使用の上、お近くの郵便局から5月31日までにお振込みください。なお、2009年1月～3月末日に新しく入会された方は、2009年度会費は免除されます。

<編集後記> 今年も桜が私たちの心を楽しませてくれました。そして「桜」といえば「協会」。いよいよ20周年記念事業の企画が動き始めました。折しも横浜では開港150周年記念博が開催されていますが、横浜スペイン協会20年の歴史を記念事業に活かして行きたいと思えます。楽しい思い出となりますよう会員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。(鈴木生雄)

編集委員 山田るり子 石井加奈弘 久保田誠志 佐藤陸雄 澤田真人 鈴木生雄 宮崎紗伎 山崎宗城 山下幸子 渡邊昭夫 飯塚 劭

* 投稿寄稿宛先

横浜スペイン協会会報係 e-mail : aiyes_press@yokohama-spain.jp

横浜スペイン協会URL http://www.yokohama-spain.jp

次号の原稿締切は

7月10日(金)です。

投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。